

評価委員会における提言

【素案】

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学に係る平成19事業年度の業務実績評価の過程において、法人の業務実績に対する評価及び指摘事項以外で、和歌山県及び公立大学法人和歌山県立医科大学に対する各委員の提言を参考までに下記のとおりとりまとめた。

記

【今後の課題】

- ・ 独立行政法人化された緊張感を維持しながら、持続的発展を可能にする方策の確立が問われる。地方独立行政法人法メリットを十分に活用し、これまで実施してきた各施策の継続・深耕を果たし、残念ながら放棄してきた施策、取り組みが十分でなかった項目を拾い上げ、実行していく必要がある。

教育、保健・医療・福祉は地域・県・国にとって基本的なインフラである。重荷と感ずることなく、重層・立体的な取り組みを期待する。

【教育・研究の評価】

- ・ 教育・研究の最終評価の一つは附属病院における患者満足度である。例えば、受診者からのクレーム数・内容の好転度、医師外来開始時間の厳守状況、外来診療待ち時間の短縮度などを毎年比較検討し、改善状況を評価していく必要があると考える。

【附属病院の経費削減】

- ・ 附属病院の経費削減のため、預託方式の採用、アウトソーシングの見直し、DPCデータを活用した経営分析システムの導入などの努力をされたことは評価できるが、このような努力と同時に、職員一人一人が経費削減のためにすぐにでも実行可能な節電や節水を実行していくことも重要だと考える。例えば、1) 外来診療後の消灯、エアコンオフ 2) エレベータを使用せず階段を利用 3) 様々な部署での節電、節水など。これらの実行率が年度ごとに上昇していけばすばらしい。

【安全管理】

- ・ 全教職員・学生を対象とした定期的な防災避難訓練の定着化、全員の安否確認システムの導入を検討されたい。

【財務分析】

- ・ 財務面においては診療収入の増加など一定の成果を上げているが、診療収入増加の理由についてさらに分析を深める必要がある。また、病床の効率的利用、材料費、エネルギー費の節減など、収支バランスの改善努力も引き続き行っていく必要がある。

